

茶病害虫防除情報

【第 4 号】

令和 7 年 7 月 16 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

三・四番茶摘採後の病害虫防除対策

これから病害虫の活動は最も盛んな時期になりますので発生状況に注意しましょう。三番茶を摘採した後発生する病害虫には、輪斑病・チャノミドリヒメコバイ・チャノキイロアザミウマ・ハマキムシ類・カンザワハダニ・ヨモギエダシヤク・マダラカサハラハムシなどがあります。この時期の茶園の防除は、来年の一番茶の基になる秋芽の充実や樹勢維持のために大切です。

☆ 防除の考え方

「やぶきた」園の輪斑病防除は三番茶の摘採直後、更新園再生芽整枝直後に行いましょう。

チャノミドリヒメコバイ・チャノキイロアザミウマは梅雨明け後増加しますので、発生が多い園は摘採後から秋芽萌芽前までの間に補完的に防除し、秋芽に対する発生密度を低下させておきましょう。

ヨモギエダシヤクは発生状況を観察し、多い場合は出来るだけ若齢幼虫期に防除しましょう。チャノカクモンハマキ、チャハマキはハマキ天敵、ハマキコン-N などによる防除を実施していない園では発生に注意し、若齢幼虫期に防除しましょう。

輪斑病、チャノミドリヒメコバイ、ハマキムシ類などの防除薬剤には一部耐性菌発生や感受性低下がみられますので薬剤選択に注意しましょう。なお、薬剤使用回数は三番茶摘採・整枝でリセットされ、三番茶摘採・整枝後～秋整枝までが一収穫期になりますので、薬剤選定に留意しましょう。

☆ 輪斑病 ……やや多

6月の輪斑病の発生はやや多となっており、気温の上昇とともに、発生しやすくなるため注意が必要です。

本病は主に高温の雨天時や葉が濡れている状態で摘採や整枝を行うと、その切り口から感染し発病しますが、降雨がなくても摘採・整枝時の傷の汁液でも感染しますので、伝染源病葉の多い園などは注意が必要です。このため薬剤防除は摘採・整枝後できるだけ早く行うことがポイントで、摘採・整枝3日後までに散布しましょう。摘採後すぐに防除が出来ない場合が多いので、摘採1週間後頃に1cm位整枝して直ちに防除を行う方法も現実的です。この時期に輪斑病をしっかり防除することが、秋芽への新梢枯死症発生を少なくします。

☆ **チャノミドリヒメコハイ…多** **チャノキイロアザミウマ…並**

今年は梅雨期間が短かったため、両害虫とも発生しやすい状態で経過していると思われます。今後、乾燥した天気が続くと発生はさらに増加してくると思われます。増殖が早く、秋芽の生育・充実が著しく阻害されることがあります。発生が多い傾向の園では秋芽の萌芽前までに補完防除して密度低下を図ります。深刈り、浅刈りなどの更新園の再生芽は集中的に被害を受け、樹勢回復に著しく影響しますので、特に注意しましょう。

☆ **コカモハマキ…多** **チャハマキ…やや多** **チャノホカ…多** **ヨモギエダシヤク**

最近発生が多くなる傾向が見られ、毎年この時期から被害が増加します。この時期の発生はダラダラと不揃いになりますが、いずれも若齢幼虫期、巻葉初期、葉潜巻葉期に防除することがポイントです。

☆ **カンザワハダニ** **マダラカサハラハムシ**

最近、この時期あたりから発生増加がみられますので、発生初期に防除します。

表 三・四番茶摘採後および更新園の病虫害薬剤防除法 (太字剤は栽培暦採用)

対象病虫害	防除時期	使用薬剤・使用濃度	使用基準
輪斑病 (基幹防除) (最終摘採・整枝直後) (更新園再生芽整枝後) (台風後緊急防除)	摘採・整枝後 台風後 (3日後迄)	カズミンホルトール 500～1000倍	14日前 2回
		カッパールシ水和剤 500～1000倍	14日前 2回
		アミスター 20フロアブル 2000倍	14日前 3回
		テップロスフロアブル 1000～2000倍	14日前 2回
		ニマイバー水和剤 1000～1500倍	14日前 1回
黒葉腐病 (発生の恐れのある園)	初発生確認後	ダコニール 1000 700～1000倍	10日前 1回
		ナリア WDG 2000倍	7日前 2回
チャノミドリヒメコハイ チャノキイロアザミウマ	摘採後～秋芽萌芽前 更新園再生芽生育期	コルト顆粒水和剤 2000～3000倍	7日前 2回
		ハチハチ乳剤 1000～1500倍	14日前 1回
		ガンバ水和剤 1000～1500倍	14日前 1回
		コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
		グレースシア乳剤 2000倍	14日前 1回
マダラカサハラハムシ	秋芽萌芽直前	コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
		グレースシア乳剤 2000倍	14日前 1回
		エクシレル SE 2000倍	7日前 1回
		テップン液剤 1000倍	3日前 1回

コカクモンハマキ・チャハマキ ヨモギエダシヤク (チャノホソガ)	摘採・整枝後 若齢幼虫期 (卵～潜葉幼虫期)	フルコンフロアブル 4000～8000 倍	7 日前 2 回
		スピノエースフロアブル 2000～4000 倍	7 日前 2 回
		ディアナ SC 2500～5000 倍	前日 1 回
		アファーム乳剤 1000～2000 倍	7 日前 1 回
		グレースシア乳剤 2000 倍	14 日前 1 回
カンザワハダニ	発生初期	ダニコンゴフロアブル 2000～4000 倍	7 日前 1 回
		ダニサラハフロアブル 1000～2000 倍	7 日前 2 回
		アグリメック 1000 倍	7 日前 1 回

- ☆備考 ① ダニコール 1000 は秋芽生育期に使用予定の場合には最終摘採・整枝後の使用は出来ない。
 ② 薬剤選定はこれまでの使用状況、秋芽生育期使用予定や耐性菌、抵抗性問題を考慮して行う。
 ③ 薬剤の使用にあたっては、最新の登録内容をご確認ください。

三番茶摘採後に発生する病議



摘採（整枝）切り口に発病した輪斑病



輪斑病菌 分生子



チャノミドリヒメヨコバイ（成虫）



幼虫



被害芽



チャノキアザミウマ (幼虫)

蛹



被害芽